

ことである。」と平野¹⁾は述べており、当所においても地域と施設の違いはあるが、保健師の役割は変わらないと考える。

2) 暴力の視点を持ち、その特性を十分理解する

暴力という手段を使い、女性をコントロールしている現状を知ること、多くの女性が暴力の影響を受け、傷ついていることがわかった。また、支援者側に暴力の視点や理解がなければ、女性が受けた身体的暴力及び精神的暴力を見逃したり、女性への二次被害を生むことにも繋がるということを実感した。

暴力の影響を十分理解し、暴力の恐怖やストレスが高まる保護命令申し立て等の場合は、指導員が同行したり、その女性の主張をサポートする役割が指導員には必要となる。

3) エンパワメントに係わる支援

当所を利用する女性は、長年暴力を受け続けることで、感情の麻痺や自分への自信を失い、「自分はだめな人間」であると思い込み、「心の元気さ」が消失している場合が多い。

そこで、安全を確保し、温かく見守ること、あるがままに受け入れること、信頼関係を保つこと、生活環境の調整、利用者同士の係わり等の支援をとおして女性がエンパワーしていくように思われる。その過程の中で指導員自身もエンパワーされると考える。

4) 多方面にわたる関係制度等の情報提供

自立支援のためには、女性の状況に合わせた情報提供が必要であることから、離婚や保護命令申し立てに関すること、生活保護に関すること、求職に関すること、アパート探しに関すること、各種社会福祉施設に関すること等多方面の情報を提供している。

5) 他機関との連携

当所だけでは、自立支援が困難な現状があるため、「他機関との連携なくして女性の自立はない」と言っても過言ではない。そこで、今後も関係者が集まり、役割分担を明確にし、女性の自己決定を尊重しながら自立支援をすることが必要である。

3. 自立支援の困難な背景

女性の中には、心身に病気を有している場合があり、家族関係の破綻、経済的基盤の欠如、依存的・自己中心的な側面、過去の心の傷等が複雑に絡み合い自立を困難にしている現状がある。

当所からの退所が即自立には繋がらず、長期的な支援が必要と思われる女性も多いが、退所後のサ

ポート体制がないため、今後その体制の構築が必要であると考えます。

4. 支援者自身のメンタルヘルス

「24時間の拘束」「緊急性が高い」「多種多様な価値観の女性と関わる」「解決困難な複合課題がある」「暴力等の影響で自己決定が難しい状況にある女性を支援する」等の業務特性があるため、支援者自身が疲れ果て、燃え尽きることがある。そのため、当所では、週1回カンファレンス（処遇会議）の場を設け、情報交換、スーパービジョンの授受及び支援者のメンタルヘルスの保持の場としても活用しており、非常に有効であると考えます。

IV. まとめ

逐語録から分析した結果、支援の特質としては、自立支援の困難さがあげられる。それは、被害者の状況に加え、地域での支援体制の不備等が理由である。一時保護施設であるため24時間の拘束や夜間・休日の緊急連絡があること、また、避妊及び感染症予防・多方面にわたる関係制度に関する知識が求められること、そして、支援には暴力への理解や身の安全の確保が必要であること等の支援の特質も明らかとなった。

このような支援の特質をふまえ、指導員の機能を考えると、安全の確保と自立支援があげられる。今後は指導員の増員、DV・婦人保護に関する研修システムの構築、指導員の身の安全の確保とメンタルヘルスの保持、DVに関する予防教育の普及・啓発が課題であると考えます。

V. 引用文献

- 1) 平野かよ子. 保健婦批判に込めて私の思うこれからの保健婦が目指す方向. 保健婦雑誌. 1995. 51. N. 10: 804

口述17

看護管理者教育ファーストレベル教育の評価 － 修了者の動向から －

早川ひと美¹⁾ 上泉 和子¹⁾ 鄭 佳紅¹⁾
中村 恵子¹⁾ 石鍋 圭子¹⁾ 平尾 明美¹⁾
木浪智佳子¹⁾ 伊藤日出男¹⁾ 川崎 勝枝²⁾

- 1) 青森県立保健大学
- 2) 青森県看護協会

Key Words : ①ファーストレベル ②教育評価 ③管理者教育

I. はじめに

昨今の医療を取り巻く環境変化は激しく急速であり、医療組織の運営は厳しさを増している。環境変化への対応のみならず、社会が求めるヘルスケアニーズに十分応えていくための人材育成や効果的な人材活用は重要であるといえる。

青森県立保健大学ではこれらのことを背景に、看護職専門分野研修事業の検討を開始し平成17年度の認定看護管理者教育セカンドレベルの開講を目指し、プロジェクトを発足させた。このプロジェクトで実施したセカンドレベルニーズ調査において、ファーストレベル修了者の現状と教育の成果を調査したので報告する。

II. 目的

1. ファーストレベル修了者の現状を明らかにする。
2. ファーストレベルに対する期待とその達成度について明らかにする。
3. 現在の業務遂行に対するファーストレベル受講の貢献度を明らかにする。

III. 研究方法

青森県看護協会において、平成5～14年度にファーストレベルを修了した者、および県内病院の看護部門の代表者を対象に郵送による自記式質問紙を用いて調査した。調査期間は平成16年2月2日～25日であった。対象者には調査の趣旨を文書にて添付し、個人が特定されないよう無記名で個別の封筒にて回収した。修了者の名簿は青森県看護協会の手承を得て入手した。

IV. 結果

回収率はファーストレベル修了者、67.4% (455)、代表者49.1% (54)であった。

1. ファーストレベル修了者の所属施設の設置主体、規模については表1・2に示す。

表1 所属施設の設置主体 (%)

国	県	市町村	他の公的病院	医療法人
49 (10.7)	69 (15.1)	244 (53.6)	30 (6.6)	25 (5.5)
公益法人	他の法人	その他	無回答	
4 (0.9)	19 (4.2)	9 (2.0)	5 (1.1)	

表2 所属施設の規模 (%)

99床以下	100～199	200～299	300～399
35 (13.7)	68 (26.7)	68 (26.7)	37 (14.5)
400～499	500～599	600床以上	無回答
73 (28.6)	52 (20.4)	91 (35.7)	31 (12.2)

2. 修了者の現状

平均年齢は48歳、職位については表3、役割については表4のとおりである。受講後昇任した者は33.2%であった。職位別では、受講時職位がなかった者の57.6%、主任・副師長の31.8%、師長の26.5%が昇任していた。また、受講当時委員会などの役割を持っていなかった者のうち、受講後、新たに委員会メンバー等の役割を得た者は、38.6%であった。

表3 修了者の職位

人 (%)	職位なし	主任・副師長	師長	副看護部長	看護部長	その他	無回答
受講時	66 (14.5)	261 (57.4)	113 (24.8)	6 (1.3)	4 (0.9)	3 (0.7)	2 (0.4)
現在	21 (4.6)	210 (46.2)	161 (35.4)	30 (6.6)	14 (3.1)	18 (4.0)	1 (0.2)

表4 修了者の委員会等の役割の有無

人 (%)	役割あり	役割なし
受講時	271 (59.6)	184 (44.4)
現在	342 (75.2)	113 (24.8)

3. ファーストレベルに対する期待とその達成度を「看護単位の長として看護管理が実践できる」「看護管理能力の向上」「調整能力の向上」「変革能力の向上」「看護実践能力の向上」「指導能力(リーダーシップ)の向上」「管理者としての志気の向上」の7項目について、修了者には「低い」から「高い」までの4段階で尋ね、代表者には優先順位の高いもの3つを選択してもらった。その結果、修了者の期待は「指導能力の向上」が85.8%と最も高く、達成度についても「指導能力の向上」が71.1%が最も高かった。看護部門の代表者の結果では、「看護単位の長として看護管理実践ができること」を最優先順位として選択した者が一番多かった。優先順位の2番目では「調整能力の向上」、次いで「指導能力の向上」であった。受講当時の職位別では、職位なしは、「看護実践能力の向上」、主任・副師長では「指導能力の向上」、師長は「看護単位の長としての看護管理実践ができる」「看護管理能力の向上」についての期待が高かった。達成度については、職位なしで「指導能力の向上」、主任・副師長と師長で「管理者としての志気の向上」が高くなっていた。
4. 現在の業務遂行に対するファーストレベル受講の貢献度

「とても役に立っている」14.1%、「役に立っている」69.0%であった。職位別にみると、「とても役に立っている」「役に立っている」と回答した者の割合は、職位が高いほど多かった。また役割の有無につ

いてみると、「とても役に立っている」「役に立っている」と回答した者の割合は、役割を持っていない者より役割を持っている者のほうが多かった。

V. 考察

修了者の所属施設では、市町村や県・国などの公立が多く、規模では400床以上の施設に所属する者が50%以上を占め、99床以下が少ない。県内の設置主体の割合では医療法人が一番多く、規模では99床以下が一番多いことから、小規模施設や民間施設では長期研修への参加が困難なことが推測できる。

ファーストレベル教育に対する修了者の期待と達成度については、どちらにおいても「指導能力の向上」が一番高く、ファーストレベル教育が受講者の期待に応え、修了後の指導能力の向上に貢献したと考えられる。しかし、代表者の期待と修了者の期待には相違がみられ、代表者が期待する「看護単位の長として看護管理を實踐できる」ことや「看護管理能力の向上」については、今後、セカンドレベルなどの管理者教育において、達成度を高めることが可能と考えられる。

修了者の昇任状況については、受講当時職位がなかった者のうち57.6%が昇任しており、ファーストレベル教育の受講が昇任の要因として活用されていることが伺える。また、受講当時、委員会などの役割を持っていなかった者のうち約4割について、新たに委員会メンバーなどの役割を得ていることから、ファーストレベル教育の受講修了者が活用されていることが伺える。以上のことからファーストレベル教育の成果があったと評価できる。

VI. 文献

兵庫県看護協会看護管理者資格認定特別委員会：兵庫県看護協会認定看護管理者研修；ファーストレベル5年間の評価と今後の課題看護, Vol.53, No.3, p.70-75, 2000.

口述18

テキストマイニングを利用した 授業効果判定の試み

杉山 克己¹⁾

1) 青森県立保健大学

Key Words ①テキストマイニング ②授業効果判定
③探索的分析

I. はじめに

報告者は「特色ある大学教育支援プログラム」への申請チームの一員として授業「効果」をテキストマイニングを用いて分析する機会を得た。しかし、先行研究ではテキストマイニングの授業効果判定を試みた例はほとんど見られなかった。そこで、新しい試みとして、実例を紹介しつつ、その特徴と留意点について整理する。

II. 目的

本報告の主な目的は、テキストマイニングの特徴と留意点を具体的なデータの分析を示しながら述べる事にある。

III. 調査対象と方法

用いたデータは、青森県立保健大学の4年生必修科目である「ケアマネジメント論」(以下、ケアマネ論)および「ケアマネジメント論演習」(以下、ケアマネ演習)の流れの中で行われた自由記載アンケート結果である。アンケート実施時期は2004年度後期であった。実際のアンケート実施は、ケアマネ論初回(調査1)、ケアマネ演習初回(調査2)、ケアマネ演習最終日(調査3)にそれぞれ授業時間内に配布回収された。3回のアンケートは同一質問の自由記載型であり、問1は「あなたの考える“ケアマネジメント”について、約50字程度で定義しなさい」、問2は「ケアマネジメントにおける連携について、あなたの考えを述べなさい」というものであった。アンケートは成績と関係ない事を明記してそれぞれの授業の初回(3回目はケアマネ演習の最終回)に集合調査として行い、その時間内に回収した。今回はこの内、問2を分析対象とした。

IV. 結果および考察

1. テキストマイニング

テキストマイニングの目標は(大量の)テキスト型データの中からできるだけ「自動的」に「有意義で有意義な特徴や法則性」などを導き出すことにある。また、通常のテキスト型データ分析のように、一つ一つのデータを見ていたのでは気がつかないような「特徴」の発見ということもある。なお、本報告ではWordMinerというソフトを用いている(注1)。

2. 分かち書きとキーワードの抽出および編集

日本語テキストデータの場合、コンピューターで扱いやすくするための前処理を行う。例えば、受取ったデータの最初の回答の冒頭部分は次のようになる。

原文:「患者や在宅療養者が満足のいく、…」→